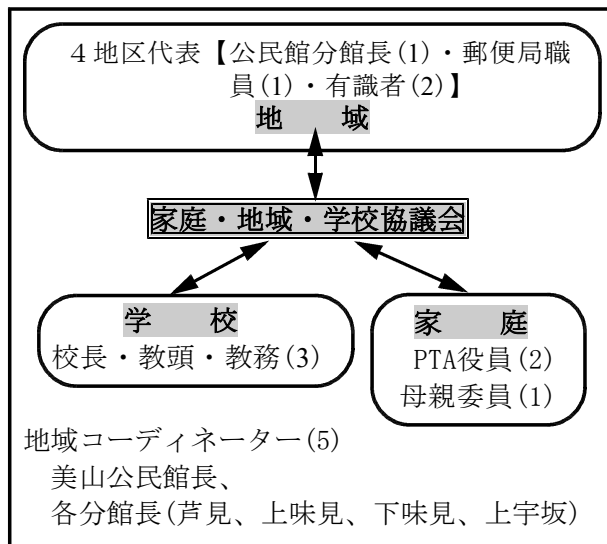


## 1 「家庭・地域・学校協議会について」

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の開催計画

- ・時期と回数  
6月18日、11月10日、2月7日  
(年3回)
- ・協議内容
  - ①学校経営方針  
今年度の取組の重点化
  - ②美山中学校区教育  
取組の報告と課題の検討
  - ③美山地区の課題  
地域を活かした体験学習や、交流学习についての振り返り  
美山地区の教育課題
  - ④学校評価の報告・検討  
今後の課題

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- ・地域コーディネーターの協力を得ながら地域との関わり、地域を見つめ、地域の一員としての自覚を深め、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・児童の気づきや意見を生かした学習活動の展開を図り、学習の成果を地域に向けて発信することを通して、進んで地域に関わろうとする態度を育てる

### (2) 活動の実際

#### ①美山の達人から学ぼう (全学年)

「美山にはどんなすごい人がいるのだろう」この問いをきっかけに子どもたちはそれぞれ家庭などで聞き取りを行い、その中から技を教えてくれそうな人を選んで体験活動を行った。この活動は、全校で行われ、それぞれの学年に合わせて、総合や生活科で活動を展開した。

#### 【学校に来てもらった美山の達人】

- ・篆刻教室 (5・6年生)
- ・毛筆教室 (6年生)
- ・絵手紙 (4～6年生)
- ・フラワーアレンジ (4～6年生)
- ・美山に残る昔話 (1・2年生)



【フラワーアレンジを学ぶ】

#### ②美山のお宝を探そう (全学年)

従来までも美山のお宝探しを行ってきたが、それぞれの活動につながりが薄く、単発的だった。そこで今年度は一つの活動から、児童の発言を生かして、それをさらに深化させていく取組を行った。その一つが稚鮎放流体験である。稚鮎放流体験は従来も行われてきたのだが、「放流して終わり」という感じだった。そこで今年度は、美山のお宝の一つとして足羽川の鮎について考えさせ、そこからまず鮎についての調べ学習を行っ

た。その際、地域コーディネーターにお願いし、足羽川漁協に全面協力してもらい調べ活動をした。その後、稚鮎放流をして、さらになぜ美山地区で鮎釣りが盛んなのかを考えた。すると、足羽川のきれいさなどに気づくことができ、そこから子どもたちの発想で足羽川の環境美化活動にも取り組んだ。さらに、環境保全のポスターを作成し、おとり鮎店や飲食・宿泊施設に貼ってもらうなど、ひとつの活動から地域の協力を得ながら、次々に活動を広げていくことができた。



【ポスターで地区に呼びかける】

#### 【今年度探した美山のお宝】

- ・境寺・梶谷地区（朝倉氏ゆかりの地・日本武尊神社 1・2年生）
- ・芦見地区（旧芦見小学校、別れの地 3・4年生）
- ・美山の鮎（鮎の学習・稚鮎放流体験・足羽川を守ろう作戦 全学年）

### （3）地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターには、主に体験活動における講師の連絡先や活動場所の確保などに協力をお願いした。特に、地区探検では、講師の紹介はもちろん、子どもたちがどのようなルートで回るとよいか、待機場所をどうするかなどを綿密に調整してもらった。また、稚鮎の放流体験では、申込をする時期が遅れてしまい活動自体が危ぶまれたが、地域コーディネーターが足羽川漁協に交渉してくれたので実施することができた。

### （4）特に工夫した事項

本活動の最大のポイントは、従来まで行われていた体験活動を児童自身が見直し、それをつなげて、より深い取組へと深化させていることである。それをそれぞれの学年の発達段階や教科に合わせて展開する。そして、それぞれの学年が、それぞれ活動して終わるのでなく、発表会（美山啓明フェスタ）という形で共有することで、他学年からふるさと再発見への新たな学びや刺激を受けることができた。また、そうした活動を記録するために班に1台（少人数のため1学年およそ2班）タブレットを渡した。児童はその時の様子を記録し、それをまたタブレットを使って啓明フェスタの時に発表した。タブレットで撮影した動画や写真を発表の中にも含めることで、他の学年の児童にも「自分たちも会ってみたい、行ってみたい」という気持ちを高めることができた。そしてその思いが美山地区全体への興味や関心を引き出すことになったり、次年度の活動につながるきっかけになったりすることができた。



【美山啓明フェスタでの発表】

### （5）成果と課題

前述の通り、従来の活動を見直し、それを整理し、大きな芯（美山の達人・お宝）を作ることで、活動内容は違っていても全校一体感のある取組をすることができた。また、それを発表会で共有することで、「そんな人がいるなんて知らなかった」「自分たちもやってみたい」と、ふるさと美山のヒトやモノに大変興味を示し、学びが広がっている様子がよく分かった。課題としては、子どもたちの聞き取りや意欲をもとにして活動をしている分、初めて取り組むことが多く、教員の準備がたいへんだった。さらに地域コーディネーターに協力を依頼して、交渉等がもう少しスムーズになるとよかった。